



2026年6月4日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A B E J A  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 岡 田 陽 介  
(コード番号：5574 東証グロース市場)  
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 英 一 樹  
(TEL. 03-6387-9222)

**NEDO が公募した「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業  
領域特化生成 AI 基盤モデルの開発 (GENIAC)」に、当社提案が採択**

当社は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) が公募した「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／領域特化生成 AI 基盤モデルの開発 (GENIAC)」(以下「第四期事業」)に、当社が提案した「領域特化型 AI エージェントの開発」が採択されたことをお知らせいたします。

本件は第一期から四期連続の参画となります。第四期事業において、当社は株式会社 IDOM (本社：東京都千代田区、代表取締役社長 羽鳥 由宇介、以下「IDOM」) と連携し、自動車整備に特化した AI エージェントの構築を行ってまいります。

なお、本件が今期の業績に与える影響は現時点で軽微と見込んでおりますが、中長期的に当社の業績の向上に資するものと考えております。今後、公表すべき事項が発生した場合には速やかに公表いたします。

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上



各位

2026年6月4日  
株式会社 ABEJA

**ABEJA、経済産業省と NEDO が推進する「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／競争力ある生成 AI 基盤モデルの開発（GENIAC）」に採択  
～ IDOM と連携し、自動車整備に関する領域特化型 AI エージェントを構築 ～**



人と AI の協調により「ゆたかな世界を、実装する」株式会社 ABEJA（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：岡田 陽介、以下「ABEJA」）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）が公募した「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業※1／競争力ある生成 AI 基盤モデルの開発（GENIAC）」（以下「第四期事業」）に、当社提案の「領域特化型 AI エージェントの開発」が採択されたことをお知らせいたします。

第一期から四期連続の参画となる ABEJA は、第四期事業において、中古車流通大手である「ガリバー」ブランドなどを全国約 498 店舗（2026 年 2 月期時点）展開する株式会社 IDOM（以下「IDOM」）と連携し、自動車整備に特化した AI エージェントの構築を行います。

## ■ 背景

ABEJA は、「ゆたかな世界を、実装する」を経営理念に掲げ、ABEJA Platform を中核に、顧客の AI 活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現するエンタープライズプラットフォーム事業を展開しています。ABEJA Platform は、AI を PoC（概念検証）ではなく実運用として成立させ、Agentic AI による意思決定と Physical AI による実行を統合することで、データ、意思決定、オペレーションを一体的に扱い、リアル空間における業務の高度化を支える実装基盤です。また、人と AI が協調する「Human in the Loop」を前提としたアーキテクチャの元、初期段階から AI の実運用を可能にし、「ゼロ PoC」を実現します。これにより、ミッションクリティカルな業務においても、AI を業務プロセスに組み込みながら継続的に高度化することが可能です。ABEJA は、ABEJA Platform を通し



て、産業構造の変革を推進しています。

GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge) は、日本国内の生成 AI の開発力強化及び社会実装の促進を目的に、経済産業省および NEDO が立ち上げたプロジェクトです。今回の公募では、主に計算資源の提供支援を通じて競争力のある生成 AI 基盤モデルの開発を加速することを目的としており、2024 年 2 月の事業開始から第四期目となります。ABEJA は、GENIAC に第一期から参画しており、本採択により四期連続となります。

ABEJA は第三期までにおいて※2、AI エージェントを始めとする LLM の周辺技術の研究開発を進めてまいりました。ミッションクリティカル業務においても、高い精度とセキュリティを担保した状態で LLM を利活用できる技術的な土台を確立できたと考えております。第四期事業では、IDOM と連携し、第三期までに培ったノウハウを基に「自動車整備領域特化型 AI エージェント」を構築します。また、高い専門性と安全性が求められる「自動車整備領域」での実運用を検証します。

自動車整備業界は、国内市場において総整備売上高 6 兆 6,592 億円規模※3 に達する一大産業ですが、昨今、人材不足の深刻化が進んでいます。令和 6 年度の有効求人倍率は全職種平均の約 4 倍※4 という売り手市場が続いていることに加え、整備士の平均年齢は 47.2 歳※5 まで上昇しており、熟練技術者の退職による「現場の暗黙知」の喪失リスクが顕在化しています。加えて、EV や ADAS (先進運転支援システム) 等の普及により整備の難易度が増大し、特定の熟練技術者に業務負荷が集中するなど、現場全体の生産性低下が喫緊の課題となっています。

ABEJA は、深刻な人手不足、業務の属人化、技術の高度化による生産性の低下などは、自動車整備業界に限らず、日本の多くの産業で顕在化している共通課題であると認識しています。産業構造の変革の一助となるべく、当該課題の解決に向けた研究開発に取り組んでまいります。

## ■ 概要

本取り組みで構築する「自動車整備領域特化型 AI エージェント」は、整備士が故障原因の特定や点検手順の確認を行う際の判断を支援する AI エージェントです。当該 AI エージェントの構築においては、命に係る保安基準の徹底、多様な故障症状から原因を特定するための高度な推論能力、運用の中で蓄積した現場データに基づく継続的な精度向上が必要不可欠です。

ABEJA は、IDOM が蓄積してきた修理実績や点検基準等の整備関連データを元に、LLM が自動生成した大量の故障診断シナリオから成る専用のデータセットを構築します。その上で、整備マニュアルや過去事例など複数の情報ソースから必要な情報を自律的に検索・参照し、根拠のある回答を生成する「ToolUse 能力」、多様な故障症状から原因を論理的・段階的に絞り込む「多段推論能力」を強化した AI エージェントの開発を行います。

現場の整備士が AI に質問すると、点検手順、過去事例、現場の暗黙知等を統合した解決策が即座に提示され、熟練技術者の知見を必要とする高度な情報であっても経験の浅深を問わず対応することが可能となります。

また、ABEJA および IDOM は、技術データを外部に送信することなく、かつネットワーク環境に依存しない稼働を実現するため、店舗内に専用のオンプレミス環境を構築することを予定しております。

これにより、開発した AI エージェントは、IDOM の実店舗に導入した上で利便性と安定性を評価することが可能となります。また、現場には、実際の運用を通じて回答精度を継続的に向上させる「Human in the Loop」も適用し、仕組みの有用性も検証します。



ABEJA は本取り組みを起点に、対象車種・拠点の拡大や多言語機能によるグローバル人材の育成支援の展開を視野に入れております。また将来的には、「日本発の高度な整備ノウハウ」として海外への展開や、Physical AI への適用を見据えたデータ蓄積の推進も検討してまいります。

## ■ 事業概要

公募事業名：ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／競争力ある生成 AI 基盤モデルの開発 (GENIAC)

当社応募事業名：自動車整備領域特化型 AI エージェントの開発

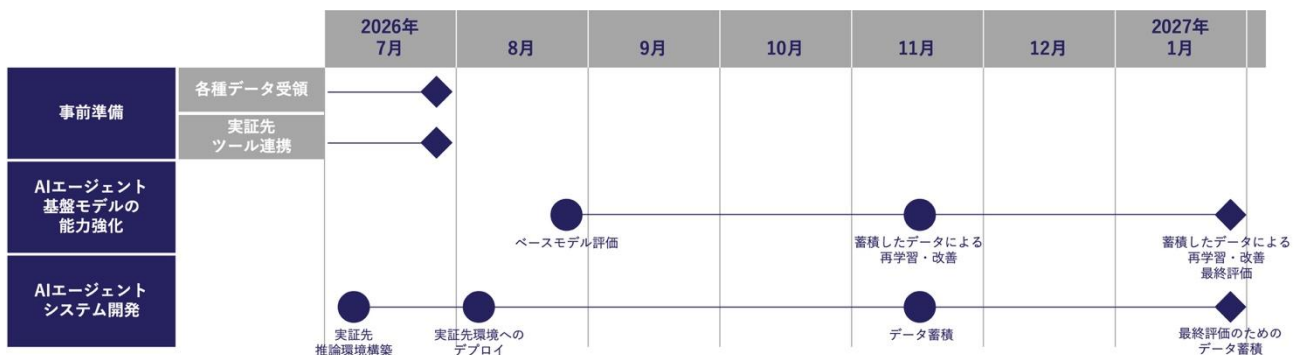
実施期間：2026 年 7 月～2027 年 1 月（予定）

NEDO 公表内容：[https://www.nedo.go.jp/koubo/CD3\\_100421.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CD3_100421.html)

## 取り組み内容

| 実施内容   | 開発される基盤モデル  | 社会実装の方法  |
|--|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 暗黙知抽出に向けたデータ基盤の構築と合成データ生成</li><li>② 自動車整備特化型数十B級基盤モデルの開発 (CPT/SFT)</li><li>③ エージェント機能 (Tool-use) の実装と最適化</li><li>④ 現場知見に基づくフィードバックとデータ提供</li></ol> | <p>自動車整備ドメインにおける高度な専門知識と、自律的な課題解決能力（エージェント機能）を備えた基盤モデルを開発。</p> <p>アクティブパラメータが30B以下のオープンモデルをベースとし、非公開の整備記録・暗黙知を高品質な学習データへと変換し、継続事前学習および指示チューニングを実施。専門用語・手順に関する予測精度（Perplexity）を大幅に向上させる。</p> | <p>実証パートナーの拠点を活用し、「Human in the Loop」を用いて、現場のフィードバックを即座に反映し、実用性を検証。エッジ推論環境の導入により機密性を担保しつつ、段階的に展開を拡張。</p> |

## 実施スケジュール



※1 ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業：日本国内におけるポスト 5G 情報通信システムの開発・製造基盤強化を目指し、中核となる技術を開発する事業。ポスト 5G 情報通信システムとは、第 5 世代移動通信システム（5G）より更に超低遅延や多数同時接続といった機能が強化されたポスト 5G に対応した通信システムを指します。

[https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/joho/post5g/index.html](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/post5g/index.html)



- ※2 第一期における当社発表および成果発表は以下よりご確認ください。  
<https://www.abejainc.com/news/20240202/1>  
<http://www.youtube.com/watch?v=70nYBgBxCdw>  
第二期における当社発表および成果発表は以下よりご確認ください。  
<https://www.abejainc.com/news/20241010/1>  
<https://www.abejainc.com/news/20250603/1>  
第三期における当社発表および成果発表は以下よりご確認ください。  
<https://www.abejainc.com/news/20250715/1>  
<https://www.abejainc.com/news/20260327/1>
- ※3 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 令和7年度自動車特定整備業実態調査結果の概要
- ※4 厚生労働省 職業情報提供サイト「job tag」
- ※5 国土交通省「IAAE2025（国際オートアフターマーケット EXPO2025）」講演資料（2025年2月）

### ■ 株式会社 ABEJA について

ABEJA は、「ゆたかな世界を、実装する」を経営理念に掲げ、ABEJA Platform を中核に、顧客の AI 活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現するエンタープライズプラットフォーム事業を展開しています。ABEJA Platform は、AI を PoC（概念検証）ではなく実運用として成立させ、Agentic AI による意思決定と Physical AI による実行を統合することで、データ、意思決定及びオペレーションを一体的に扱い、リアル空間における業務の高度化を支える実装基盤です。また、人と AI が協調する「Human in the Loop」を前提としたアーキテクチャの元、初期段階から AI の実運用を可能にし、「ゼロ PoC」を実現します。これにより、ミッションクリティカルな業務においても、AI を業務プロセスに組み込みながら継続的に高度化することが可能です。

本社：東京都港区三田一丁目1番14号 Bizflex 麻布十番2階

設立：2012年9月10日

代表：代表取締役 CEO 岡田 陽介

事業：顧客の AI 活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現する「エンタープライズプラットフォーム事業」

URL：<https://abejainc.com>